

10日から全国高校野球徳島大会

V争い 鳴門軸に混戦

10日に開幕する第103回全国高校野球選手権徳島大会で、優勝争いを演じるのはどのチームか。県秋季、春季両大会を連覇した鳴門がやり手。春季大会準Vで打力の高い徳島商、充実した戦力を誇る鳴門渦潮が続く。さらに投打レベルが高い生光学園、本格派左腕がいる第2シードの阿南光、名門・池田などが追いつ開となりそうで、混戦は必至。他の有力校も甲子園切符を狙う。



日裏 (鳴門渦潮)

栗林 (徳島商)

岸本 (鳴門)

篠原 (池田)

奥濱 (生光学園)

第1シードの鳴門は攻と切れの良い変化球を低守に穴がない。投の中心めに集める。右腕前田、は春に続いて2年生左腕原田も控え、連戦にも対応できる。打線は各打者がセンター返しを徹底し、得点を積み重ねる。守りも守備範囲が広い遊撃手岸本を中心に堅い。第3シードの徳島商は打線に切れ目がなく、上

徳島商・鳴門渦潮など追う



第2シード阿南光の本格派左腕森山

位下位のどこからでも得点を奪える。中でも栗林、幸坂、米澤の中軸は勝負強い。本格派右腕の福永から投手陣の出来が鍵を握る。秋季大会準優勝の鳴門渦潮は、強肩捕手の4番佐藤を中心に各打者が強い打球を放つ。投手陣の右腕日裏、左腕河村が力を出し切れば、4年ぶりの甲子園出場が見えてくる。

阿南光の中心は、140キロ前半の速球が武器で、1年夏から経験豊富な2年生左腕森山。連戦を勝ち抜く上で、森山以外の投手陣がどれだけ踏ん張れるかがポイントとなる。激戦ゾーンに入り勝ち進めば準々決勝で鳴門渦潮とぶつかる可能性がある。

生光学園は制球のいい2年生右腕奥濱ら右腕4投手を擁し、大崩れしないのが強み。打線もバツ

このほか、県秋季大会3位の徳島北は秋元、長尾の両左腕に力がある。第4シードの小松島は、機動力を生かした攻撃が持ち味。富岡西も制球の安定した右腕上田を中心に、そつのない試合運びは健在。打力の高い名西、春季大会4強の脇町、ベスト8の川島、好右腕高木が軸の城東なども注目される。

(木村恭明)

1があり、鳴門との6月下旬の練習試合は7-4で勝っている。池田は右腕篠原が140キロ後半の直球に威力がある。つなく打撃でエースを援護したい。